

なぜ脱毛するのでしょうか

【毛の成長と脱毛】

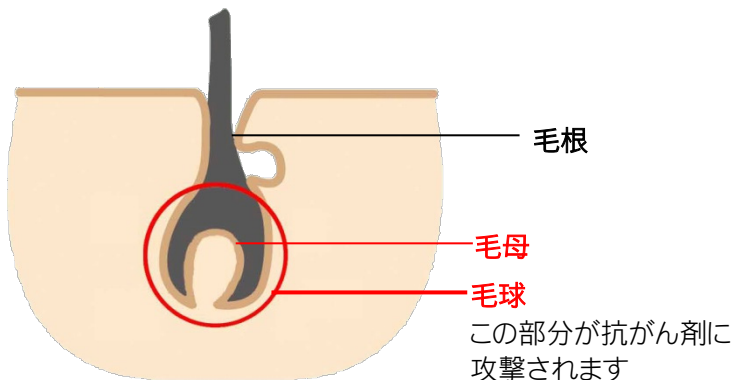
体毛は、「成長」→「成長停止」→「脱毛」を繰り返しています。自然に毛が抜けるのは、この周期が繰り返されているためです。この周期を「毛周期」といいます。

体毛は、根っこにある毛母細胞（毛を作るもとになる細胞）の分裂によって成長します。毛母細胞は、からだの細胞の中でも細胞分裂が活発に行われているところです。

では、抗がん剤によって脱毛が起きるのはなぜでしょうか？

抗がん剤は分裂が活発な細胞に強く影響します。毛母細胞は、細胞分裂が非常に活発なため、抗がん剤の影響を受けやすく、その結果脱毛が起こります。

また、「毛周期」は、髪の毛、まゆ毛、陰毛などからだの部位で異なります。髪の毛は、その80～90%が細胞分裂の活発な成長期にあり、体毛の中で最も影響を受けやすくなります。



【脱毛(中等度以上)を起こしやすい抗がん剤について】

抗がん剤治療を行うと、必ず全ての髪の毛が抜けてしまうと思っている方も多いようです。しかし実際には、必ずしも全て抜けてしまうわけではありません。ここでは、脱毛が起こる程度を高度(ほぼ全て抜ける)、中等度(髪の毛の量が減り、頭皮が見える)、軽度(ヘアースタイルにはあまり影響がない)に分類した時に、頻度が中等度以上の主な薬剤を記載しました。なお、脱毛の起こる頻度が高い抗がん剤でも、投与量によって脱毛の程度は異なりますし、同じ薬でも脱毛・発毛の程度やスピードには個人差がありますので、他人と比べないようにしましょう。またこの一覧は、脱毛が起こる抗がん剤の全てを網羅しているわけではありません。起こる可能性については、ぜひ担当医にご確認ください。

一般名※	商品名※
アムルピシン	カルセド
イホスファミド	イホマイド
イリノテカン	トポテシン、カンプト、イリノテカン、オニバイド
エトポシド	ベプシド、ラステット、エトポシド
エピルビシン	ファルモルピシン、エピルビシン
エリブリン	ハラヴェン
シクロホスファミド	エンドキサン
ドキシソルビシン	アドリアシン、ドキシル、ドキシソルビシン
ドセタキセル	タキソテール、ドセタキセル、ワンタキソテール
パクリタキセル	タキソール、パクリタキセル
パクリタキセル (アルブミン懸濁型)	アブラキサン
カバジタキセル	ジェブタナ
カルボプラチン	パラプラチン、カルボプラチン
チオテパ	リサイオ



一般名※	商品名※
トラスツズマブ デルクステカン	エンハーツ
ビノレルビン	ナベルビン、ロゼウス
ビンクリスチン	オンコビン
ブレオマイシン	ブレオ
ベバシズマブ	アバスチン、ベバシズマブ BS
パゾパニブ	ヴォトリエント
オシメルチニブ	タグリッソ
ダコミチニブ	ビジンプロ
エンホルツマブ ベドチン	パドセブ
ペミガチニブ	ペマジール
パルボシクリブ	イブランス

※薬の一般名と商品名

「一般名」とは薬の有効成分を示す名前です。これに対して「商品名」とは製薬企業が医薬品を販売するためにつけた名前です。

